

高木俊介氏講演会「精神医療福祉の新たな潮流」の感想

宮崎県立看護大学 4年 A・S

私は、卒業後は精神領域で頑張っていきたいと思っています。

今回の高木先生の講演会をきっかけに、ACTという考え方を知りました。まず、昔は車椅子などを使用せざるを得ない身体障害者に対する地域の理解が乏しかったという話を聞き、驚きました。私は、身体障害者の方も不自由なく暮らせるような地域であることが当たり前な時代に生まれ育ったので、昔は身体障害者について理解されていなかったということ考えたこともありませんでした。この話を聞いて、今は精神障害者の方が地域で安心して暮らせるような制度はあまり整っていないし、精神障害者に対する地域の理解も乏しいけれど、いつか必ず精神障害者の方も一人の人間として、地域で暮らしていくことが当たり前になる時代が来るんだろうな、絶対に来てほしいなと心から思いました。この願いを叶えるための、ひとつの手段であるACTという考え方、仕組みを知ることが出来て、とても勉強になりました。私自身もっと勉強をして、周りの人に伝えていきたいと思いました。

私は実際に精神病院での実習で、学生目線ですが、「なぜこの患者さんはこんなに長く入院し続ける必要があるんだろう。一体どこが悪いんだろう」と、つい思ってしまうような患者さん方に出会いました。それぞれ何かしらの理由があって退院まで漕ぎ着けないのだろうとは思いますが、ずっと閉ざされた病院の中で過ごしていれば、良くなるはずのものも、逆に悪くなってしまうのではないかと感じることもありました。しかし、ACTのような、地域で精神障害者と共存していけるような体制を整えば、このような患者さん方も、本当の意味で救われていくのではないかと感じました。

最後に、今回の講演会で私が一番心に残ったことは、「回復」という意味についての先生のお言葉です。「回復とは、病気自体の回復という意味ではなくて、その人の人生の権利を回復するという意味」という言葉に、とても共感し、感動しました。今後精神領域で働いていく上で、この言葉を常に頭において、頑張っていきたいと思いました。

今回は貴重なお話を聞くことが出来て、本当に良かったです。ありがとうございました。